

洋書輸入協会会報

VOL. 4

NO. 8

(通巻40号) 昭和45年8月

理事会報告

7月10日(金)

(一) 総務委員会より。(関口氏)

(イ) 6月分収支報告

(ロ) 各委員会の副委員長(理事以外の)は経営研究委を除き決定した。

総務～内 外 交 易

会 報～メクレンプルグ

渉外PR～竹 内 書 店

雑誌資料～南 江 堂

雑誌補充～海 外 出 版

価格査定～欧 明 社

洋書交換～北 沢 本 店

通 関～明 治 書 房

文化厚生～白 水 社

(ハ) 折りたゝみ椅子10脚購入の件。

(ニ) ビル管理人夏季心付け1,200円分担当金支給の件。

(ホ) 事務長 7/28(火)～8/1(土) 夏季休暇の件。

以上審議の結果承認。

(二) 雑誌資料委員会より。(井出氏)

(イ) OCSとの懇談会開催の件、14日と日取りを決定。協会側出席者は丸善・紀伊國屋・US・洋販・国際・緑書房・日貿の予定。

(ロ) 外国雑誌統一資料及び高価誌リストにつき説明。

(ハ) 受注後到着までの所要日数につき、協会として統一見解を出しては如何。検討願ひ度い。

(ニ) 関口氏。IRM社長の帰国が業務拡張等で遅れて居るが、Moodyの予約価については目下検討中である由。

(三) 東独雑誌問題検討。(関口氏)

(四) 自由化問題(渡辺氏)

(イ) 本日(7/10)の日経紙「情報産業、自由化やむなし、出版・広告など対応急ぐ」の記事によれば、才三次資本自由化で出版・広告・映画は50%(才一類)業種に、新聞・通信は100%(才二類)業種にそれぞれ組み入れられる見込みであるが、之に対して出版業界は日本書籍出版協会、日本出版取次協会、日本雑誌協会、日本出版物小売業組合全国連合会の関連四団体が外資審議会、大蔵省、通産省、文化庁に対し、自由化に関連する意見書を提出したとのこと。

どうしてこの意見書提出の中に、洋書輸入協会が加わっていないのか、我々自身の努力不足ではないか。

(ロ) 各理事同意見。検討の結果、丸善中田氏を通じ和書業界との接触を計ること、及び日経新聞を事務局に備え付けること等を決定。

(ハ) 経営委員会より。(石内氏)

自由化問題と関連し、当協会のあり方について反省の上、目標を定めて運動化する必要がある。或程度自からを義務づけなければならない。

(ニ) 海外支払いについて。(関口氏)

(イ) アメリカの日本向け配船回数が減少しているのではないか。Weekly 等が固まってつく現象が目につく。

(ロ) Invoice date と実際の Shipping date とのズレが生じている。対策を要しよう。

(ヒ) 価格査定委員会より。(一條氏)

洋書・洋雑誌原価値上り証明書及び価格査定証明書利用についての願い書の件につき、去る8日の委員会決定事項を報告。検討の結果承認され JBIA Report にて通知することゝす。

(ヘ) 関西支部報告。(丹羽氏)

東大の係数決定の問題に関連し、大阪大学・京都大学等の例をあげて事情を報告。雑誌は取次業であるとの立場に立ってその性格上現品の完納は不可能であることを力説。契約時には注意の上対処する必要がある。次に通関手続の問題については今後協会の積極的な対策の樹立が望ましい。

(ホ) 懇談会議事進行につき打合せ。

7月27日(月)

(一) 株式会社オリオンの協会担当者小川氏出席、同氏は今回仕事を変わられることとなったため、同社の営業課長金子氏を後任の協会担当者として紹介された。小川氏に今迄の御厚意を感謝する。

(二) 東大雑誌契約問題報告。(関口氏)

(三) 東独 Book 問題小委員会報告。(関口氏)

(四) 米雑誌 Electronic Packaging & Production の件について。(今泉氏)

(五) 英[国]港湾スト情勢の検討。

- (㉞) OCSとの懇談会の件報告。(井出氏)
- (㉟) 関連する問題の協議。三洋・鈴木氏の提案等を検討。
- (㊱) 経営委員会より。(石内氏)

出版健保に関するアンケートの途中経過報告。

- (㊲) 関西支部より“書籍雑誌等のお取寄せについてのお願い”のお客への挨拶状披露。(下記の通り)

記

書籍雑誌等のお取寄せについてのお願い

“Would you believe the time interval between placement and receipt of first copy ranged from 15 days to 166 days?”

「注文してからオ一冊を受取る迄の時間が15日から166日にも及ぶ様な事を御信じ頂けましようか？」

これは最近の米国広告誌にあった寄稿の書き出しでございます。従来御注文の書籍を海外より取寄せます期間(又は雑誌の御予約申込の後、初号の到着いたします迄の期間)は普通米国よりは約2(3)ヶ月、欧州よりは約3(4)ヶ月でございましたが、最近次第に期間が不規則、且遅れはじめ遂には従前の1.5倍乃至3倍の時間を要するものが続出して参りました。

私共でもその原因について種々調査して居りますが、今迄判っていた単なる輸送上の混乱以外にもっと複雑且深刻な事態が夫々の発行国に発生しているのではないかと推察されるに到りました。

上にあげましたものは、その現われと思われる寄稿ですが、之は氷山の一角でこの外にも業界誌には「おそいと云う客の苦情に答える」とか「クレイムはオーダー後3ヶ月位迄はしても無駄」(その程度では未だプロセス中であるから)等々の記事が見られる様になり、夫々の発行国内でも注文処理の遅延は相当問題になって来て居ります。

日本では、この上に更に事情悪化の国際輸送時間が加わる事になります。

推測する所最近の入荷遅延乱調の原因は次の様になるかと存じます。

- (1) 企業統合、再編成に伴う担当部門の移動(整理と統合)
- (2) 人手不足に対処する省力化への転換過程で新、旧のシステムの混在、データーの移動にあたり、日本では重要な項目の脱落、誤記混乱の多発。
- (3) 機械の能力、経済性(ビット数)の関係上和・英の混在する対日本向宛名の処理の誤算、又一旦エラーが発生すると直ぐには改善効果の出ない機械化作業の弱点。

尚、新旧システムが混在していますので集約出来ないもの、極めて特殊小数のものは旧法を利用せざるを得ない為、むしろ処理が比較的速かになる傾向があります。

即ち影響の現われ方が区々で同一刊行物でも受取る側では同じ状況にならない実情となりこの事は今迄御得意様にも仲々御納得願えない点の一つでございました。

又、相次ぐ各機関のストは（港湾・郵便・印刷）次々にその影響が広く且、深くなって参りました（7月15日には全英の港湾ストが始まり可成長期に及ぶと予想されて居ります）

到着郵便物の現状は皆様既に御覧の如く一時に集中する一方、未入荷の日が続くなど乱脈でございます。

又都心の出版社と実際に本を発送する印刷所兼発送所・倉庫は何百哩と離れて居る関係上、スタンプと関係書類との照合では出版社——実際発送日との時間のずれは2～3ヶ月に及ぶものがあります。

郵便物の宛名書は極めて不充分且省略が乱暴で重要な項目の符号、番号、数字、脱落が極めて多くなって居ります。

外国業界の一部の見解では今は新しいシステムへの生みの悩みの時期にあり今後未だ2～3年の間はこの様なことが続くのではないかの事でございます。

目下の処これらの状況の急速な改善は望めませんが今後発注されます場合には、これらの事情を御賢察の上発注時期を早めるなど充分余裕（米国もので4ヶ月位、欧州もので5～6ヶ月位）をおとり頂きます様切に御願い申し上げます。

以上申し上げました事情は大半が専ら発行国側の事情による事で吾々にとっては極めて困った問題で、この為御取引先様には大変御迷惑をお掛けいたし申訳なく存じますが吾々業者も全力を之が対策に傾けて参り度いと存じますので、何卒今後共吾々の運動を御支援頂き度く御願い申し上げます。

取あえずの所関係業者と御相談いたゞき各ケースに応じた善後策をお立ての程願ひ上げます。

尚詳細については御照会次々に協会で御説明申し上げます。

昭和45年7月

大阪市北区芝田町28 一山ビル

洋書輸入協会 関西支部

電話 371—5329

懇談会記事

7月10日（金） 於日本出版クラブ

まず、洋販・渡辺氏司会のもとに当日来場の Representative の Time Mirrors 社の Mr. Ramon Balatbat の紹介と同氏の挨拶があり、退席後直に議事に入り、丸善・関口氏より配布の資料により

(1) 東京大学昭和45年度外国雑誌一括購入の価格設定の係数の交渉経過を報告、紀伊國屋・相良氏の補足説明が行なわれ

た後、9月開始の1971年度の係数交渉への心構え、注意事項等を説明し東大出入の全業者の協力を要請した。

(2) 価格査定委員会報告。(一條氏)

新たに洋書、洋雑誌原価値上り証明書を発行する。また価格査定を顧客にアピールする為「価格査定証明書御利用についてのお願い」を配布す。JBIA Report を以て各位にご案内する故ご利用かたをお願いする。

(3) 雑誌資料委員会報告。(井出氏)

配布の外国雑誌のリストにつき説明。

(4) 通関委員会報告。(関口氏、丹羽氏、相良氏)

Outsider が引きおこした予約雑誌のI/L裏書事件につき報告、これにつき丹羽氏より説明。相良氏より東京税関外郵出張所関係の人事異動につき報告(詳細は東京外郵 No.6 参照)。またこの異動を契機として税関との懇談会を開催したい由。

(5) 会報委員会報告及びその他。(相良氏)

(イ) 今回会報に新たに経営シリーズ、実務シリーズを開設し各々第1号原稿を頂戴した。引き続き掲載する故各位の寄稿お願いし度い。

(ロ) かねてより論議されて居た米国郵便料値上げは、7月1日の米新会計年度よりの実施は行なわれないこととなった。ただし諸経費高騰の折から書籍、雑誌の従来以上の値上りは避けられない様子である。

(ハ) 英港湾スト。7月14日より予定されている英港湾ストは(参加人員47,000)種々情勢かみ合って到底避けられない様子で、わが業界にも被害が及ぶであろう。注目したい。

(6) 経営研究委員会報告。(石内氏)

(イ) 健康保険に関するアンケートの中間報告。

未回答のところがかなりあり、折返し回答下さるよう要請。

(ロ) 第三次資本自由化実施に関連し出版の自由化に対応する為、丸善・紀伊國屋社長等 Top Class との懇談会を進め度い意向である。

(7) 文化厚生委員会報告。(渡辺氏)

(イ) フランクフルト国際書籍展視察旅行団は、各位のご尽力を得てかなりの参加申込を頂いたが、後10名程の申込を得たい。各位のご協力ご援助をお願いしたい。

(ロ) 東西合同旅行報告。

(ハ) 短歌同好会発足(近く JBIA Report にてご案内す)の件。

以上で議事終了し一般討議に移り、出版協会・出版取次協会、出版物小売業組合全国連合会より出された“新正味別の採用”に一條氏。東販～川島氏より各々意見の開陳あり、“洋書に関しては適用されない”旨確認し文書を以て3協会宛回答すること。東独書籍問題については改めて小委員会を開催し検討すること等を決定、質疑応答の後5.00終了散会す。

稀覯さと保存の説明

— 西洋古書目録をみて —

八 木 佐 吉

西洋の古書店で刊行している「古書販売目録」を見てみると、買わないまでも、楽しめることがある。それは大概の目録についていえることだが、掲載されている目ぼしい書物についての解説があることと、その本の製本の状態だの、保存のよしあし、が書き添えられていることである。紙が陽焼けしているのは foxed とか、染みや汚れのあるのは、どの程度きたないなどが、比較的詳細に述べられている。また、ある本についてはその伝来が書き添えられていたり、何某の蔵書票が貼ってあると書き添えてある場合もあって、時には、現物が目のなかに映される思いをすることがある。こういう説明の次に参考書誌中の掲載ナンバーがあり、一番あとに rare とか scarce などの文字がある場合が多い。

rarity をあらわす文句もいろいろあって、一つ一つが“ああさうか、それ程の珍らしさ”なのかなどと思わず、一人うなずいたりすることもある。稀少性の表現については、勿論、西洋の古書店それぞれで、まちまちである。しかし、大体において、何となく共通味をおびてゐる。従って以下のことはまあまあ、一般的にいつてのこととご判断願いたい。

普通しばしば使われているのは scarce と rare である。これに very がくっついて、もっと scarce でありもう少し rare と思わせるものもある。それでは scarce と rare と、どちらが珍らしいのか、稀れなのか。これは兄たりがたく、弟たりがたし、といってもよいが、大抵は scarce がときどき出てくる本で、rare はそれより稀れにしか市場に出てこない書物である。

また、rare にも very のほかに excessively rare とか

extremely rare などというのものもある。これはどっちがどうとも言難いが、共に専門家の手に“一生に一度”程の稀れさのものであろう。どちらかという to excessively がやや上の珍らしさと思う。

嫌らしい文句では notoriously rare などもある。“ご存じのとおり珍物です”とは恐れ入った稀覯書だが、これも rarity の程度の表わし方の一つである。unique というのも出てくる。これは文字どおり“今まで知られていなかった”または、“記録一どこの蔵書目録にも一されてない”天下の孤本を意味する稀覯本である。

これの次に位置するのが、only 2 copies known とか、やや控え目なものには apparently unique とかがある。また、あきらかにアメリカの集書家や図書館を目指していると思われる、not in USA とか not in Sabin (Sabin 編「アメリカーナ書目」に記載なしの意) などというものもある。稀れには not in British Museum などというものも出てくる。わが国ではこれほど、洋書を輸入購買しているのに not in Japan には、残念ながらまだお目にかからない。

以上古書の内容の稀覯さについては、いろいろの表わしかたや、また、おぼろげながら順序があることを記述した。つぎに、rarity とは別に、また、時には rare なるが故に要求される“保存のよさ、状態のよい古本”ということを表わす用語をならべてみる。

tall という字がよく使われている。tall copy とか very tall copy といったように書き添えてある。何だかとても気高い一頭地を抜いている本のような気がしてくる。実はこれはマーヂン（三方の小口）が全くか、またはほとんど裁断されていないという意味である。

nice もときに出てくる。slit in one leaf, but a very nice copy といったような使い方もあり、nice clean copy というようなものもある。

fine の用例は、rare item in an extremely fine condition と記されていたり、やや下って near fine copy と遠慮がちのを見たことがある。

crisp もよく使われている語である。日本語で、“手の切れるような”とか“ばりばりしている”というとは概は、すぐ紙幣を連想するが、書物の保存の状態のよいことを言い表わすのにも出てくる。crisp and clean copyとか、fine crisp copy in polished calf by Rivière など説明されていると、何かこう、fine とか nice とはちがって、それより幾段か、上位にあるきれいさを感じもする。(なお、Rivière はロンドンの著名製本所である。)

また、ときには magnificent copy などと目がくらむようなものもある。sound and completely unsophisticated copy というのもあった。“音にきこえた、完全にウブな一本”とは、まことに遠からん者は音にも聞け……で、恐れ入った古書である。

撰り抜きの逸品(本?)というわけで choice copy and unique という言い廻しもある。古書の保存のよいこと、

程度の良好さを言い表わす言葉をいろいろと挙げてみたが、以上は改装本をも含めての言いかたである。ここで、もう一つ mint というのを挙げて、結びとしよう。

mint は英和字典には造幣局とか貨幣を鋳造するとかが主たる意味と出ている。転じて、真新しい、出来たての貨幣とか、刷りたての郵便切手などに使われている。これが西洋の古書の世界では、出版されたまま、または出版社装幀のままの、しかも、今製本所から届いたような至極きれいな一本を意味している。mint copy とか、dust-jacket defective, otherwise mint などとある。後者は“カヴァーを欠いているが”とっているが、これは、近頃のわが国古書界であれば、文学書初版本のカヴァーの有無がその古書価に大した差をつけていることから見て、mint とはいわれないのであろう。

日本語では“善本”というまことによい表現の、また、調法な幅の広いいい方がある。そのほか、美本とか極美本もあるが、英語のように何となく状態が想像されるようないい方はなさそうである。

おことわりが後廻しになったが、この項では英文にのみしぼったことをつけ加えておく。(丸善本の図書館長)

「丸善ライブラリーニュース No. 68」より

出版社在日代表の紹介

Books for Asia Japan Limited

代表者 市川 温

東京都千代田区神田神保町 2-2 洋書センター

Tel. 263-6804・6805

ブックス・フォ・アジア日本支社は 1962 年に Hong Kong の本社と同時に設立され、その後、フィリピン、タイ、シンガポール、マレーシアに支社をそれぞれ設置し現在に至っている。

取扱出版社も年毎に増え、その数は英国系八社、米国系一社を数えるに至っている。その出版物は全ての分野に互り、文学関係の Methuen, Andre Deutsch, Ernest Benn, Constable, 法律関係の Sweet & Maxwell, Stevens, 理工関係の Chapman & Hall, Macdonald, 社会科学系の Tavistock, ビジネス関係の Pitman, 絵本の Purnell/Bancraft, 総合出版社の Hutchinson, B. P. C. Publishing (Macdonald) があり、それ以来年 4 月よりは A & C Black 社が同社の Line に加わる。代表者の市川氏は「私共スタッフ一同微力ながら、皆様のお役に立つよう努力する積りでおります」とのこと、今後の活躍が期待される。

「こ の 一 冊」

早稲田大学教授 植 田 重 雄

外国にいても、持って生れた性質からか、書店にはよく見にいった。ドイツではよく経験したことだが、はいるとすぐに、「どんな本を探しているのですか」ときかれる。ブラリとはいって、何となく眺めていて、気に入った本があれば、買って帰るという、そういう気分はないらしい。だがその代り、こういう本を欲しいとはっきり目的をもっていったときには、その場所に案内し、在庫をしらべてくれる迅速適確さには驚く。すべて能率的にできている。

日本ならば、出版社は大抵、東京か大阪に集中して、そこでしのぎを削っている。ドイツでは特色のある都市や大学が地方にあるように、世界に名の通った出版社が質素に堅実に学術書や芸術書を出しているのも考えさせられる。どんな売れない研究書でも最低一万部は刷り、10年20年は在庫させて売ってゆこうという基盤は、いったいどこから可能なのであろうか。一冊の造本の堅牢さ、などにもやはり文化の厚みを感じさせられる。

一寸今本の題名を忘れたが、「日本のロマンス」「日本の愛の物語」という一般向けの本を向うでみたことがある。大部分は源氏物語の話なのであるが、その挿図が何と全部浮世絵である。まさか「田舎源氏」ではあるまいかと内容をみるとやはりヘル・ヒカリである。ある日本学者ヤポノロギストにこの点を話すと、はずかしそうに首をすぼめて、「まだドイツでは残念ながら、日本は正しく知られていません。ウキヨエが有名なので、読者の好みに合せて、あゝということになります。良くないことです」といつていた。たしかに、日本の認識に及ぶのは、まだまだである。自分たちの文化への自信から、ヨーロッパ以外のものに目を向けないところもあるし、まだ好奇心でアジアを見ているからである。

某大学の工学関係の教授とバイエルン地方を旅行した。

ホテルの部屋のテーブルにある本をとり上げて、「マルクスの本がある」とその先生が叫んだのにはおどろいた。先客が忘れたか、それとも、秘密のアジトかも知れぬとんだ推理をしたのだろう。その時わたしは少しも騒がず、これはマルクスではなく、マルコ福音書(Das Evangelium nach St. Markus)であること、彼らは旅行中ホテルではかならず部屋ごとに聖書をそなえつけていて、客はねむるとき、かならず聖書の一句を読み折ること、あるいは、ベッドにはいってから聖句を口ずさみながらねむること、などを話した。その先生は、顔を赤らめて、しみじみと「全くはずかしいことですねあ」とつぶやいた。「いや、わたしだって、3ヶ月前に知っただけですよ」と慰めた。「いや、恥しいのは、そういう本をわたしがもっていないということです」と彼はいう。

此頃はカーやテレビと同じように書物も消耗品だという評論家もいる。本が出版社にあり、書齋にあり、図書館にあるのは珍らしいことではない。だが、やはり枕頭にそなえ、生涯たずさえる本もあるということは、同じあり方でもちがった意味をもっている。やはり、人間の一人一人がひそかに祈るところに、真の宗教や学問や芸術が生れてくる。それが文化である。

だから書物が生れてくるための原型になるような書物がどうしても必要なのだ。どんなに龐大な出版がなされ、テレビやラジオからも知識はいってきて、多様化されても、人間の心の中にじっくり腰をすえて、祈りと思索をうながしてくれるものがあるかぎり、心配することはない。ヘブライ人もキリスト教徒も聖書をたずさえ、それをいつでもどこにいても生活の基礎的信条としている。

キリスト教、仏教、何であれ、この一冊に生きるという宗教的な神聖観の体験がないかぎりには、われわれ日本人にも「書」の正しい観念が生れてこないのではないか。

「英国の書籍輸出著増」

英国の印刷・出版経済開発委員会 (The Printing and Publishing Economic Development Committee) が、1969年の輸出入に関する新しい統計を発表した。これによれば、輸出は1968年よりも1,200万ポンド増の8,100万ポンド、輸入は600万ポンド増の4,300万ポンドであった。

1968年の最後の四半期から1969年の第3四半期までの12カ月において、英国書籍の輸出は63,755,000ポンドで、総売上は高の47パーセントを示した。印刷及び出版の全体の輸出から見れば、書籍の占める割合は年々増加し、1951年には40パーセントであったのが1969年には53パーセントになっている。

世界全体の輸出市場に占める英国の地位という点から見れば、英連邦、米合衆国、E. E. C. 諸国の書籍輸出総額に対する英国のシェアは、1964年の22.7パーセントから、1967年には18.7パーセントに下落し、1968年には18.8%とやや回復した。

英国書籍を輸入している主要国は、第1位がアメリカで、10,375,000ポンド、第2位がオーストラリアで6,734,000ポンド、第3位が日本で3,934,000ポンドである。英連邦やその他の英語を話す諸国は、合計9,859,000ポンドであるが、アイルランド共和国は1,435,000ポンドである。西ドイツ及びオランダは、合計1,841,000ポンドであった。

出版社在日代表の紹介

Henry M. Snyder & Co., Inc.

代表者 柴田 牧人

東京都新宿区西新宿4-26-12

Tel. 377-6691

戦後日本向け輸出を開始した米国出版社代表としては最も古い名門スナイダーは、柴田氏のInternational Liaison Agencyによって代表され、各社への資料サービスとセールス・プロモーションとがおこなわれている。

戦後洋書輸入の再開にあたって、スナイダーがいち早く日本へ代表者を派遣して、海外出版物輸入協会会員とGHQとの間を斡旋し、大いに尽力したことは本会報連載の石川実氏「洋書こぼれ話」にも記されている (Vol. 4/No. 5, 本年5月号)。

スナイダーが代表している出版社は、変動はあったが、現在でも Richard D. Irwin, Simon & Schuster, Barnes & Noble, Grove Press, Frederick Ungar, World Publishing Co. など100社を優にこえている。

柴田氏によると、「名刺には Representing Henry M. Snyder & Co., Inc. となっています。また表か裏かわからないのですが、日本代表となっています。ぼくは日本代表の仕事の方が好きで、日本の業者の代弁ばかりしているといわれているようです。その方が来年再来年の商売のためになると主張しているのですが、わかってもらえないようです。これはたいへん楽なようでいて、実はたいへんむづかしい仕事です」とのことである。

1966年から1969年までの4年間を見れば、日本への輸出は、359,000 ポンドから3,934,000 ポンドへと驚くべき増加を示している。オーストラリアは、7,128,000 ポンドから6,734,000 ポンドへ、インドは887,000 ポンドから862,000 ポンドへと下っている。ヨーロッパ諸国への輸出はいずれも伸びている。例えば西ドイツは527,000 ポンドから885,000 ポンドに、フランスは214,000 ポンドから335,000 ポンドに伸びている。

(The Bookseller, 1970年7月11日号より)

「アレン・レーン氏の死亡とペンギン社とロングマン社の合併」

「ペンギン・ブックス」の創設者で、いわゆるペーパーバック革命の創始者サー・アレン・レーン氏は、去る7月7日、67才で亡くなった。アレン・レーン氏は、17才で伯父ジョン・レーン氏が経営するボドリー・ヘッド社に入り、出版業における輝かしい経歴を開始した。1935年にペンギン・ブックスの最初の10冊を刊行、1963年1月には、ボドリー・ヘッドから独立してペンギンブックス社を設立し、多分に冒険視されながら、本格的なペーパーバックの刊行に乗り出した。その後同社は驚異的な発展を遂げ、今日では英国最大のペーパーバック出版社で、ペーパーバックの総売上げの三分の一を占めるにいたっている。

アレン・レーン氏の死後、24時間もしないうちに、ペンギン社とロングマン社の合併案が発表された。ロングマン社は、云うまでもなく、オックスフォードに次ぐ、英国の大出版社である。

このように早期に合併が発表されたのは、ペンギン社の将来に対する思惑による混乱やペンギン社の支配権を得ようとするライバル会社間の争いを避けるためであると云われている。特に、これにアメリカのマグロー社がかかっていることは否めない。マグロー社は、1967年にペンギン社の株の10%を取得したが、その後着々と買い取りを進め、現在では約17%を手に入れていると云われる。米資本に対する英資本の防禦策が、このような形で表われたものとも云えよう。

(The Bookseller, 1970年7月11日号、Publishers' Weekly, 1970年7月20日号より)

—— 紀伊國屋書店提供 ——

ニュース

- 米 Plenum Publishing Corp. の General Sales Manager, Mr. Herbert Feldman 7月中旬来日。
- 英国 Longman の Divisional Managing Director, Mr. W. P. Kerr 及び同社 Hong Kong の Director, Mr. Derek Adkins 7月中旬来日。
- 米 McGraw-Hill Book Company の General Manager, Mr. Walter G. Wulff 7月下旬来日。
- 英 Collins の Hayes 氏夫妻 British Council において展示会開催のため7月下旬来日。
- Harper & Row の極東支配人 Mr. Robert C. Boettcher 8月25日より1週間の予定で来日。宿舎はパレス・ホテルの予定。

総代理店ご案内

次の通り日本総代理店の案内がございました。お手許の Agent List にご記入願います。

㈱ 紀 紀 國 屋 書 店

☎ 354-0131

Occana Pub., U. S. A.

The International Encyclopedia of Comparative Law, in 17 volumes

予約価：各巻 ￥ 42,750 (予定)

㈱ 国 際 書 房

☎ 292-4951

Le Catalogue de l'Edition Française 1970 4 Tomes

¥ 58,000

(Paris Publication, N. Y. / C. E. F., Paris)

丸 善 ㈱

☎ 272-7211

All Publications of

Centre for Agricultural Publications and Documentations Wageningen, Netherlands

All Publications of

Cement and Concrete Association, London

Brewer's Dictionary of Phrase and Fable. Centenary Editions (Cassell, London)

ca ¥ 3,240

ナ ウ カ ㈱

☎ 981-5261

Trudy Tbilisskogo Matematicheskogo Instituta im A. M. Razmadze

(Travaux de l'Institut Mathématique de Tbilissi)

Editor : Editorial Board at the Razmadze Mathematical Institute, Tbilisi.

Chairmen : N. I. Muskhelishvili.

200 to 500pp. (Vol. 1—29), 120 to 180pp. (Vol. 30—34)

Articles : in English, French, German & Russian, some in Gruzian (Vols. 1—12)

in Russian (Vols. 13—34); Summaries in Russian (Vols. 1—12)

General Index to vols. 1—20

Vols. 1—34, 1937—1968 with General Index Clothbound set ¥ 216,000

* Prepublication-price, valid until Sept. 30, 1970. ¥ 193,500

Vols. 1—29. Clothbound per vol. ¥ 7,200

Vols. 30—34. Clothbound per vol. ¥ 3,600

General Index free of charges

(Academy of Sciences of The Gruzian SSR)

㈱ 東 光 堂 書 店

☎ 272-1966

Ediciones Poligrafa/SA, Barcelona, Spain.

(All Titles of Art Books)

The Graphis Press, Zurich, Switzerland.

Graphis Packing 2

¥ 8,500

CO. P. IN. A, Milano, Italy.

Ottogono (Italian Furnishing & Industrial Design Review, Quarterly) 1 cop.

¥ 1,000

ハーパーの学術書・新刊のご案内

●経済学

Econometrics

Statistical Foundations and Applications
by Phoebus J. Dhrymes
University of Pennsylvania

\$ 14.95

America's Greatest Depression 1929—1941

by L. V. Chandler
Princeton Univ.

cloth \$ 6.95
paper \$ 4.95

International Economics

by Bo Södersten
Univ. of Lund, Sweden

\$ 13.95

●政治学

Roots of Rebellion

The Evolution of Black Politics and
Protest Since World War II.
ed. by R. P. Young

paper \$ 4.00

●社会学

Where It's At

Radical Perspectives in Sociology
ed. by S. E. Deutsch
Univ. of Oregon
and J. Howard
The State Univ.

paper \$ 4.95

Families in Crisis

ed. by P. H. Glasser and
L. N. Glasser

paper \$ 4.50

The Sociology of Economic Development

ed. by G. D. Ness
Univ. of Michigan

\$ 9.95

●哲学

Philosophy in the Age of Crisis

ed. by E. Kuykendall

\$ 8.95

Understanding Symbolic Logic

by G. J. Massey
Michigan State Univ.

\$ 9.50

●心理学

Motivation and Personality

Second edition
by A. H. Maslow

paper \$ 5.75

Essentials of Psychological Testing

Third edition
by L. J. Cronbach

\$ 10.50

Personality Dynamics

A Biosocial Approach
by G. M. Gilbert

\$ 10.00

●人類学

Marginal Natives

Anthropologists at work
ed. by M. Freilich

\$ 11.95

Anthropological Research:

The Structure of Inquiry

by P. J. Petlo
Univ. of Connecticut

\$ 8.95

●語学

The Acquisition of Language

Developmental Psycholinguistics
by D. McNeill
Univ. of Chicago

\$ 6.00

Writing and Reading in Technical English

by N. A. Pickett and
A. A. Laster

paper \$ 8.00

Stuttering: Research and Therapy

ed. by J. Sheehan
Univ. of California

\$ 9.00

Speech-Communication

Theory and Models
by R. G. Smith
Indiana Univ.

\$ 7.95

●自然科学

Environmental Geology

Conservation, Land-Use Planning,
and Resource Management
by P. T. Flawn
Univ. of Texas

\$ 14.95

The Structure and Action of Proteins

by R. E. Dickerson
California Institute of Technology

cloth \$ 9.95
paper \$ 4.95



ハーパー アンド ロウ東京事務所

〒101 東京都千代田区神田神保町1-29

電話 291・6343, 6344

昭和45年 8月 通巻第40号 洋書輸入協会

編集者 寺久保一重

〒103 東京都中央区日本橋江戸橋1-15-5 藍沢ビル302号室

電話 271-6901

〒530 関西支部 大阪市北区芝田町28 第一山中ビル

電話 371-5329